

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	魏 維
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 清末日本語教育史の研究 -教科書と学習書の分析を中心に-			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教授 高永 茂	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授 佐藤 利行	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		教授 今田 良信	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		国際室・特任教授 国立国語研究所・客員教授 迫田 久美子	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、従来の研究において看過されてきた清末の日本語学習活動を近代日本語教育の一部を成す存在であると位置づけた上で、当時の日本語教育の実態を考察することを目的としている。本論文では「清国本土における東文館並びに東文学堂の日本語教育」、「清国留学生の日本語教育」、「近代的な学校における日本語教育」、「独学の日本語学習活動」という4類型に分類しそれぞれで使用された日本語教科書と学習書の内容を考察する。本論文は全7章から成る。</p> <p>第一章では、清末日本語教育に関する先行研究を整理し、同時期に始まった台湾における植民地の「国語教育」と比較する。先行研究においては清国本土で行われた日本語学習活動が重視されてこなかったが、清末の日本語学習活動も創意工夫を凝らしながら日本語教育の発展に取り組んでいた点で、近代日本語教育の重要な一部をなす存在であるとする。</p> <p>第二章では、清末の日本語教育を「清国本土における東文館並びに東文学堂の日本語教育」など四つの類型に分類し、多様な学習活動が行われた背景を分析する。清国本土の学校教育で使用された教科書である『日語入門』『日語独習書』『日語読本』『東文教程』、清からの留学生向けの教科書である『日本語教科書』、学習書として使用された『和文漢読法』と『寄学速成法』を研究対象とすることを述べる。</p> <p>第三章では音声教育の実態を明らかにする。音声表記に用いられていた反切法と直接表音法を検討するとともに、読書・翻訳を目指す清末の日本語教育において音声教育の重要度は高くなかったとする。同時にコミュニケーション能力の育成に重きを置いていなかったため、学習者に高い会話能力を要求することは少なかったと指摘する。</p> <p>第四章では、清末の日本語教育において中心的な課題とされていた文法教育について考察する。教科書ごとに重視される文法知識は異なっていたものの、学習者に対して和漢訳の技能、読解力、運用能力などの習得が求められていたとする。当時の教科書においては文型の習得が中心になっていたこと、使役表現、受身表現など難易度の高い事項の説明は十分ではなかったことを明らかにする。</p> <p>第五章では、学習書として使用された『和文漢読法』と『寄学速成法』とを比較しながら独学による日本語の学習法について考察する。日本の新聞・雑誌・書籍を読解して短期間で知識を得ることを目標にしていたという背景があるため、読解力の養成に比重が置かれていたことを明らかにする。短期習得法の一つとして考案された和文漢読法についても詳細に考察する。</p>			

第六章では、各章の結果を総括しながら清末日本語教育の特徴について考察する。(1) 清末の日本語教育は日本の歴史や文化、習俗などの知識に関する教授に至らず、発音、語彙、文型などの言語知識の習得が中心であったこと、(2) 中国語の反切法などの言語知識を借りて日本語を教えていたこと、(3) 学習者側の要求と教育者側の意図が必ずしも一致していなかったことを指摘する。

第七章では本論文における成果を整理し、今後の研究課題と展望について述べる。

教科書と学習書という限られた資料による分析と考察ではあるが、清朝末の日本語教育の内実を解明した点は高く評価できる。本論文の成果は日本語教育の黎明期の姿を描き出したことにとどまらず、現代の日本語教育と比較することにより、清朝末の教育方法には優れた先進性が見られることを実証する研究に発展する可能性も有している。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)